

# 三重県産麦の今後の振興方策

令和8年2月

## ■県産麦の現状

### ○需要

- ・品種の特徴（低アミロース、硬質）を活かした最終製品との結びつきが進んでおり、需要は堅調
- ・これまでは需要に供給が追いついておらず、生産拡大の取組を推進
- ・近年の状況から、生産量の維持と合わせて品質の向上が必要

### ○生産

- ・生産量は近年、20,000+前後を推移しており、令和5年産は過去最高の23,368+
- ・小麦の平均単収は近年350kg/10a前後で推移していたが、令和6年産は大幅に減少
- ・令和7年産の収穫量は令和4年産並み
- ・採種面積を確保し、種子安定供給体制を維持

生産者、実需者、  
行政等関係機関が  
一体となった推進

	R7年産			R8年産
	購入希望数量	収穫量（等級麦）	収穫量－購入希望	購入希望数量
あやひかり	17,500+	15,563+	▲1,937+	17,500+
ニシノカオリ	3,700+	3,660+	▲40+	3,800+
タマイズミR	100+	317+	217+	-
さとのそら	1,850+	1,349+	▲501+	2,293+
合計	23,150+	20,889+	▲2,261+	23,593+

※タマイズミRは令和8年産から生産なし

## ■県産麦の課題

### ○生産

- ・年次によって生産量が不安定
- ・低品質（低アミロ麦、タンパク質、色相不良、異物混入等）

### ○流通

- ・生産量の拡大に伴う保管流通体制の逼迫

## ■具体的な取組

### ○かび毒の予防及び低減に向けた対策

- ・重点対応
  - ▶かび毒検出値が高い対象者の選定と改善指導
  - ▶防除を適切に実施できていない対象者への改善指導
- ・継続対応
  - ▶各地域単位での栽培指導

### ○実需者との協議（麦作振興対策会議等）

- ・需要に応じた品種構成の検討
- ・生産性が高く安定した次期奨励品種の検討

### ○生産性向上に向けた対策

- ▶チゼル深耕等による排水技術の導入促進
- ▶品種に応じた効果的な追肥施用促進
- ▶地力維持・低下予防のための土壌改良促進
- ▶赤かび病等重要病害の防除促進
- ▶適期播種、適期収穫の徹底指導

### ○産地での保管体制、流通体制の検討

### ○需要拡大および消費拡大に向けた取組

収穫時における分別管理

かび毒防止啓発資料の作成

産地交付金

技術情報発信

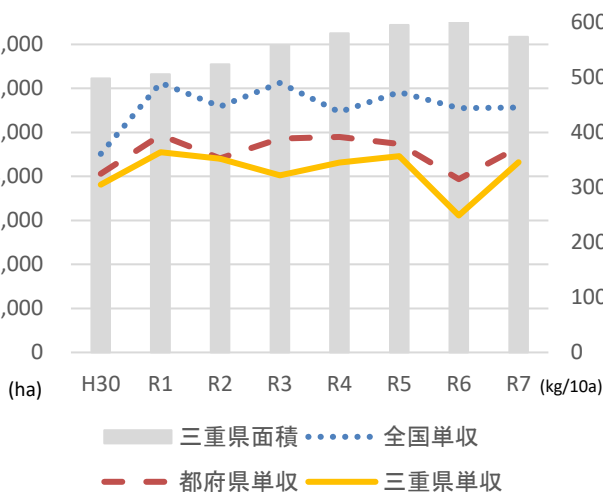
補助事業の活用

SNS、ポスターによる情報発信

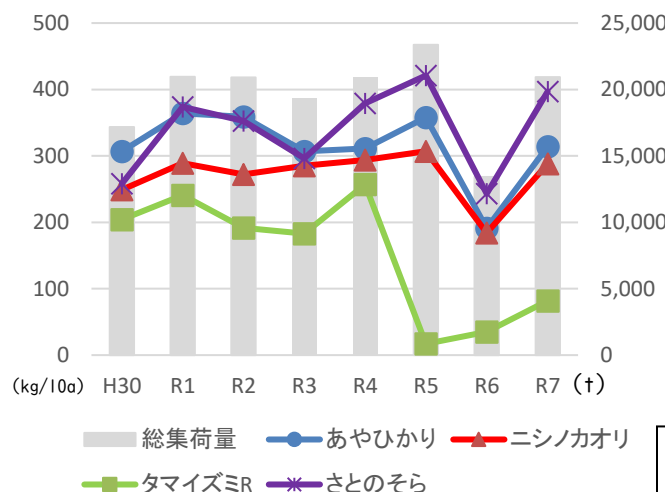
## 近年の事業・施策について

- 平成25年度～（2012年度～）
  - 経営所得安定対策
  - 令和3年度～令和4年度
    - 水田麦・大豆産地生産性向上事業（技術・機械の導入支援）
    - 令和4年度
      - 国産小麦産地生産性向上事業（技術・機械の導入支援）
      - 県産小麦供給強化緊急対策事業（県産小麦PR）
  - 令和5年度～令和7年度
    - 麦・大豆生産技術向上事業（技術導入支援）
    - 産地生産基盤パワーアップ事業（麦大豆枠の新設）（R5・R6）
  - 令和6年度～
    - 新基本計画実装・農業構造転換支援事業（老朽化した共同利用施設の再編集集約・合理化）（麦・大豆ストックセンターの再編集集約・合理化）
  - 令和7年度～
    - 新たな麦流通づくりモデル事業（DON等汚染の予防及び低減に対応した流通構造の体制構築）
  - 令和8年度～
    - 麦類生産技術向上事業（生産性向上支援）

栽培面積と単収の推移（小麦）



収量と品種別単収（小麦）



注：過去面積・単収 農林水産省公表値 ※R7は速報値  
 品種別単収 三重県産麦民間流通地方連絡協議会値  
 購入希望数量 三重県産麦民間流通地方連絡協議会値